

平成24年度 第1回花見川区公民館運営審議会議事録

第1 日 時 平成24年6月28日(木) 午後1時30分～午後3時30分

第2 場 所 幕張公民館 講習室

第3 出席者 (委員)(定足数8名>7.5名=15名/2)

出 席・・・15名

竹内委員、加瀬委員、鶴岡委員、小嶋委員、吉田委員、大矢委員、東野委員
新田委員、服部委員、場中委員、田中委員、門脇委員、橋本委員、平山委員、
花島委員

欠 席・・・0名

〈事務局〉

笹本館長、松尾副館長(幕張)、渡貫館長(花園)、平川館長(犢橋)、田中館長
(検見川)、小原館長(花見川)、篠崎館長(さつきが丘)、小出館長(こてはし台)、
和田館長(長作)、山本館長(朝日ヶ丘)、内山館長(幕張本郷)、若梅主査補、
永田主任主事(幕張)

第4 審議会の概要

1 正・副委員長選出

(1) 委員長に新田委員、副委員長に田中委員が選出された。

2 議事録署名人の選出

(1) 小嶋委員、東野委員が議事録署名人に指名された。

3 区内公民館事業及び区事業の平成23年度事業報告及び平成24年度事業計画について

(1) 松尾副館長及び各館長より、各公民館主催事業の平成23年度事業報告と平成24年度事業計画を併せて説明した。

(2) 笹本館長より花見川区事業の平成23年度事業報告と平成24年度事業計画について併せて説明した。

第5 審議会前・事務経過

1 花見川区公民館運営審議会委員へ委嘱状を交付

2 配布資料確認

3 議事進行についての説明

4 傍聴人の入室・・・なし

第6 審議会・会議経過

1 開会のことば（進行 笹本館長）

2 正・副委員長あいさつ（新田委員長・田中副委員長）

3 規定により、議長は委員長、副議長は副委員長が務めることになっており、それぞれの席に着く。

4 議事録署名人として、小嶋委員、東野委員を選出した。

5 議題（審議事項）

(1) 承認事項 議案第1号 平成23年度事業報告について（奇数ページ）

(2) 報告事項 平成24年度事業計画について（偶数ページ）一括して、資料に基づき、提案・説明した。

松尾副館長と各館長 各公民館の平成23年度事業報告並びに平成24年度事業計画を説明した。

笹本館長 区事業の平成23年度事業報告、並びに平成24年度事業計画を説明した。

委員長 報告事項について意見を求める。

委員 さつきが丘公民館などで映画会を実施したようだが、どのようなものを上映したのか。

事務局 さつきが丘公民館では子ども向けにアニメ等の作品を上映し、併せて移動交番の方に来てもらって、交通安全の指導をしていただいた。こてはし台公民館でも16ミリの映写機を使い、アニメで伝統的な落語の話や防災のことを上映したりするなど工夫を図った。

委員 説明の中で若い世代は「市政だより」を取らないため、ホームページを活用したいとのことだが、各公民館ではそれぞれホームページがあるのか。

事務局 各公民館でそれぞれホームページを設けてクラブサークルの紹介をするなど広報している。また一部地域では試験的に「市政だより」を町内会を通して各世帯に配ったり、「公民館だより」を町内会を通して回覧してもらうなど両方を駆使して周知できるよう努力している。

委員 若いお母さんたちは公民館がどういうところで、ど

		ういう活動をしているのか知らない人が多い。公民館でこのような活動をしているなどを図書館等に掲示したりしているのか。
事	務	局
		他の施設でもいろんなところからの掲示依頼が多く、スペースの問題もあり難しい。花見川区内の約半分の公民館では「公民館だより」を発行しており、各家庭や学校を通じて配布し、事業等はPRしている。
委		員
		常にアンテナを張っていてそこに興味があれば来るが、興味がなければ入ってこない。来てみて初めて「こんなことやっているのか」と感じる人も多い。
委		員
		私たちの世代だと新聞は取ってないし、「市政だより」も見ないため自分からは求めようとしません。私自身、子どもが小学校に入学し、学校から手紙等が配られて初めて公民館でこんなことやっているんだと感じた一人である。就学前の子どもを抱えているお母さんたちに対しては情報がまったく入ってこない。見ていると楽しそうな講座をたくさんやっていて、応募が少なかったというのを聞くともったいない感じがした。その世代に対してPRしているか。
事	務	局
		先に述べたように市のホームページでも知らせたり、幕張公民館では「公民館だより」に類するものを作成し、公民館の行事や地域の出来事などを載せて管内の小・中学校や自治会を通して各世帯に知らせている。こてはし台公民館においてもいくつかの事業のチラシを作成して町内会において回覧してもらおうようにしている。子どもたちを対象とした工作教室などでは題名だけでは分かりにくい部分もあるため、作品の見本を取り寄せて各学校へ持参して理解してもらおうようにしている。いずれにしてもPRの重要性は感じており、幅広く周知できるよう努力する。
委		員
		小学生対象の事業は学校へPRするとして、それ以

外の世代を対象としたものは、自治会を通してチラシを回覧してもらえば浸透するのではないか。

委員 私の住んでいるマンションは自治会組織がなく、マンション自体も自治会に入っていないので、そういった情報も回覧も一切ない。私の地域では線路をはさんだ山側は自治会活動が活発だが、海側は集合住宅が多く、あまり活発ではない。私の子どもが通っている学校からの連絡で地域の情報を知ることが多く、それより小さい子どもを抱えている母親たちなどは情報も入ってこないし、自治会があること自体知らないと思う。

事務局 我々の方でもそういった地域事情を踏まえ、公民館を会合等で利用されるマンションの管理組合や自治会に対し、掲示板等に掲示してもらおうようお願いしている。掲示板のスペースがないなど断られたケースもあるが、今後もポスターや「公民館だより」等を掲示していただけるよう交渉していく。

委員長 情報を発信する側と受け取る側、お互いが試行錯誤しながらどうしたらよいか考えないといけない。若い世代の新聞離れが進んでいる中で特に必要なのかも知れない。

委員 自治会がどういうものであるか、組織に入っていないとつながりが切れてしまう。マンション等の建設で開発が行われる際に、組織に入ってもらおうよう働きかけをするなどの仕組み作りが必要だ。何かことが起こったときに組織が動くことは必要であるが、市はどうするかということを整理していかないといけないのではないか。大規模団地に住んでいて、大災害が起こったときどうするかという突っ込みが足りないと思う。公民館は市の組織としては末端にいるわけだからしっかり声をあげていかないといけないと思う。

委員 男性を対象とした講座を応募して受講した人はここで知ったのが多かったのか。

事務局 「市政だより」で知ったというのが大半である。あとは家族の人が、たまたま公民館にあるチラシを見て応募するケースもあった。また幕張公民館では2か所ある出入り口近くのフェンスに掲示板を設けて主催事業のポスターを掲示し、前を通る際も目につきやすいようにしている。

委員長 平成24年度事業計画について意見を求める。

委員 一 地震が発生し一時中断（館内を巡回して安全確認）一
さつきが丘公民館の「認知症サポーター養成講座」は
はどういう方に講師をしていただくのか。

事務局 市長部局の担当職員が講師となってやっただ
く予定である。ねらいとしては家族や周りの人が
認知症になったとき、どう対処すればよいかを中心
に実施する予定である。

委員 花見川区事業の「子育てママのおしゃべりタイム」
に対する年間予算はどのくらいか。それに対する
補助金等はないのか。

事務局 子育てサポーターに対し、一人1回2,000円で
2人来ていただいている。子育てサポーターに対す
る講師謝礼のみで、補助金等は一切ない。

委員 幕張公民館の「2歳児前後の子育て講座」は託児
ボランティアが来てどういうことをするのか。

事務局 2歳児前後の子どもを抱えている保護者を対象に
講座を実施しているが、保護者が講義を受けている
間、別室でその託児ボランティアの方々に子ども
たちの面倒を見てもらっている。託児ボランティア
については先に一般に募集をかけて実施している。

委員 「家庭教育学級」が各公民館で実施されているよう
だが、子どもを交えてやるのではなく、子どもを育
てている保護者に対する教育が必要なのではない
か。また「完全学校週5日制」に伴う事業を公民館
へ押し付けられているような気がしてならない。
学校が週5日制になったのは、法律の改正によって
勤務時間が週40時間になったことに伴い、土曜日

		が閉庁となり、学校も休みとなったものである。学校週5日制は学校教育の問題であり、公民館は主体的に事業を持つかたちでよいのではないかと。
事務局		「家庭教育学級」は保護者を対象とした講座も併せて実施している。また「学校週5日制対応事業」と称していたのを平成24年度からは「学校休業日対応事業」に改め、土・日曜、夏休み等の長期の休みに地域の子どもたちの居場所づくりとして事業を展開する予定である。
委員		全校生徒は何百人といるわけで、公民館では到底対応できない。これを公民館事業として位置づけするのは無理がある。
事務局		子どもたちに参加してもらうには、土曜日・日曜日しかないので、その日を利用して実施している。
委員		「学校休業日対応事業」は、いくつ実施せよとか、予算があってその範囲で実施するとかあるのか。
事務局		そういう強制的なものはない。各公民館で必要に応じ実施している。
委員長		2、3歳児が家庭内で被害を受けるなどが問題となっているが、家族構成が核家族化し、子育てに対する不安がこういう状況を生んでいる。各公民館においても子育て中の保護者の情報交換の場を設けるなど、引き続き家庭教育に関する事業を展開してほしい。
委員		子どもたちを対象とした事業の中で、学年を超えた交流を仕掛けるなどを実施しているのか。
事務局		こてはし台公民館では毎月1回「子どもチャレンジ隊」を開設し、当公民館で活動している囲碁、将棋のサークルの協力で、子どもたちに定期的に教えながら、対局等で異年齢交流を図っている。また料理教室においても、学年の違う者同士が同じ料理に取り組みながら、意識させるようにしている。
委員		そういうことは学校現場においてもすでに実施している。公民館が主体的にリードする必要はないと

思う。

委員 公民館というのは中学校区単位で地域との結びつきというのが立脚点である。集団という意味で考えた場合、階層別ではなくあらゆる世代を含めた社会づくりが必要だと思う。

事務局 幕張公民館では「子ども会リーダー育成講習会」において、地域の子ども会のリーダーに対して講習会を実施し、受講した方がリーダーとなって子ども会の中で教えている。その他小学生～中学生、小学校高学年～高校生といった幅広い世代を対象とした事業や、夏休み期間中には公民館でこういった活動をしているかを知ってもらうために、小学生を対象として「公民館サークル体験隊」を計画している。

委員 私のところの青少年育成委員会においても公民館を利用して、子どもたちとのふれあう場を作って行きたい。地域の子ども会の活動にしても公民館を使えば、主催事業だけではない、公民館活動が広がると思っている。

委員長 学校教育と社会教育、それぞれいろんな側面がある。今は小学校でもクラブ活動が盛んである。低学年～最上級生に至るまで一つのグループとして活動していて、とても良い影響を与えているようだ。

事務局 学校の場合、上の学年はリーダーシップをとり、下の学年はそれに協力してついていく、それを養う場である。公民館の場合、それにプラスして地域の方との異世代間交流に重点を置いている。

委員 公民館は乳幼児から子ども、青年そしてお年寄りに至るまで幅広い分野でやっていかないといけない。それが浸透していけば、お年寄りたちにとって楽しい人生にもつながっていくのではないかと。

委員 私の近隣は同じ花見川区でありながら中学校が美浜区の学区になってしまう。災害時の避難場所等については幕張公民館が近くてよいのだが。

委員 その地区の自治会は、美浜区の中学校区ではある

ものの、自治会連絡協議会は花見川区に属している
ので、避難場所等については問題ないと思う。その
点については自治会同士の連携等、自治会にも頑張
っていただかないといけない。

事務局 災害時の避難場所等は学区が違うのでそこへ行く
というのではない。

委員 それぞれの公民館で、行政職経験者と学校長経験者
で館長職が代々引き継がれている。市教委にも話を
したが、代々同じ部門の経験者が引き継がれるより
は、行政職経験者、学校長経験者それぞれの良さが
あると思うので一度そういった人事交流も必要だ
と感じている。

委員長 意見も出尽くしたようなので、平成23年度事業報
告、並びに平成24年度事業計画は承認してよいか。
承認であれば拍手をお願いしたい。

— 拍手を持って承認の意思を表明 —

委員長 承認とする。各公民館に置かれては、遅滞無く公民
館事業に取り組むようお願いし、審議会終了を宣言
する。

第7 閉会のことば（笹本館長） 長時間にわたりご審議いただき、誠にありがとうご
ざいました。貴重なご意見をこれからの公民館運営
に参考とさせていただきます。

閉会 15時30分

問い合わせ先 千葉市教育委員会生涯学習部幕張公民館
電話 043-273-7522